

作成するに当たってのキーワード

○学習指導要領より

「自分のよさや可能性を認識する」「他者を価値ある存在として尊重し」「多様な人々と協働」

○中教審『令和の日本型教育』の構築を目指して」より

「個別最適な学び」「協働的な学び」

令和3年度 荒川区立第二瑞光小学校 学校経営方針

校長 猪瀬 賢一

■荒川区教育委員会の目標

○中長期目標

「未来を拓きたくましく生きる子どもを育成する」

○中長期目標を達成していくための方向性

【方向性1】 子ども一人ひとりのよさを伸ばし、学ぶ力を高める

【方向性2】 多様性を尊重し、豊かな感性と創造力を育む

【方向性3】 基本的な生活習慣を形成し、健全な心身を培う

○新たな「荒川区学校教育ビジョン」の実現に向けた6本の施策の柱

- (1) 夢につながる主体的な学びを推進する
- (2) こころとからだの健全な育成を図る
- (3) 体験的な学習活動をとおして、よりよい未来社会を築く
- (4) 教師が育つ学校をつくる
- (5) 学校・家庭・地域が強いスクラムを組んで子どもたちを育てる
- (6) 良好な教育環境と体制を整える

1 第二瑞光小学校の教育目標

「考える子 やさしい子 元気な子」

この教育目標を掲げ、児童に社会の中で夢をもって生きていく基礎を身に付けさせていく。そのために「わくわくする思考力」「人を大切にできる心情」「前向きに生活する態度」を育成していくよう、教育活動を実施していく。

2 目指す児童像

○考える子⇒「わくわくする思考力」を身に付けた子

- ①自分のよさを認識し、さらに成長するにはどうしたらよいか考え、計画を立て粘り強く実行する。
- ②友達と一緒に考え話し合うことで、考えを広めたり、深めたりする。
- ③振り返りをし、できるようになったこと、分かったことを整理し、自分の成長したことを考える。

○やさしい子⇒「人を大切にする心情」を身に付けた子

- ①「ありがとう」を言うなど、感謝する気持ちを態度に表す。
- ②お家の方、地域の方、教職員、友達など身近にいる人に、ていねいな言葉で話したり、あいさつしたりする。
- ③自分にしてもらいたいことをすすんで友達に行う。

○元気な子⇒「前向きに生活する態度」を身に付けた子

- ①笑顔で人と接する。
- ②失敗をおそれず、友達と励まし合いながら、楽しんで新たなことに挑戦する。
- ③健康な生活を送るにはどうしたらよいか、知識を得て実行する。

3 教職員の役割

- ・夢をもち、子供に夢をもたせる指導をする。
- ・子供が自ら学ぶ授業を創造する。
- ・児童が安心して学べる教室環境を提供する。
- ・子供の成長に気付き、子供に自信をもたせる。
- ・児童の話を傾聴する。
- ・受容をし、許容はしない。
- ・保護者や地域の方々と共に児童の成長を考える。

4 今年度の指導の重点と具体的な取組

(1) 【考える子「わくわくする思考力」の育成】

①単元ゴールと学習計画を提示し、見通しをもたせた授業の実施（考える子①③）

研究の成果を生かし、国語科以外の教科等でも単元のゴールと単元の学習計画を示し、児童に見通しをもたせた授業を行う。また、1単位時間の学習の流れも示して授業を行う。

(例) 社会科「ごみのしよりと利用」の学習した後に新聞にまとめるという単元計画なら、単元の初めに新聞を提示する。

(例) 体育科「跳び箱」の学習では、できてほしい技を映像で示すほか、安全な準備や片付けの方法や順番等の決まりを示す。

(例) 単元の計画の立て方について

- ・低学年は教師が示す。
- ・中学年は教師と児童で立てる。
- ・高学年は児童中心で立てる。

(例) 1単位時間の学習の流れ

- ・めあての確認→・学習課題の把握→・一斉指導→・個別学習→・振り返り

②話し合い活動の充実（考える子②）

特別活動や各教科で、話し合い活動を意図的に取り入れ、友達の話最後まで聞く態度を身に付けさせるとともに、それに対する意見をもたせる。

(例) 発表者は、意見を述べた後に「どうですか」と他者へ意見を求め、相互指名をして話し合いをすすめる。

③振り返りをし、学びを深める授業の実施 (考える子③)

学びを深めるために、振り返る時間を設ける。

(例) 新たに分かったこと、できるようになったコツ、考えが深まったことなどを発表させたり、書かせたりする。

④算数習熟度別学習の充実 (考える子①②③)

習熟度別に単元計画を立て、グループに応じて補充的学習、発展的学習に軽重を付ける。また、1時間(45分)の授業のもち方も個に応じた指導の一層の充実を図る。さらに、学習計画にミニテストを取り入れ、基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得させる。

(例) 10時間の単元

A グループ 8時間教科書の内容 2時間発展問題

B グループ 9時間教科書の内容 1時間補充問題

(例) 45分の学習

A グループ 15分一斉指導 30分個別選択授業

B グループ 15分一斉指導 15分個別指導 15分一斉指導

⑤一人一台のTPCのさらなる活用 (考える子①)

朝学習やじっくりタイム、家庭学習で積極的に「eライブラリ」を活用し、個に応じた学習に取り組ませる。また、中学年以上は、調べたことをパワーポイントを活用してまとめ、発表する学習を取り入れる。

(例) 火曜日のじっくりタイムは算数のeライブラリ、木曜日のじっくりタイムは学習したい教科のeライブラリに取り組む。

⑥プログラミング教育のさらなる推進 (考える子①②③)

昨年度実施した理科、算数科でプログラミング教育を確実に実践していく。また、その他の教科、領域でもプログラミング的思考を取り入れた授業をさらに開発していく。

(例) レゴブロックを使ったプログラミングを余剰時間で使ってみる。

(例) 調理の手順を準備から片付けまでイメージして書かせてから、実習に取り組む。

⑦英語教育の充実 (考える子②③)

英語の発話量を増やし、基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得させる。また、英語科(英語活動)を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。

(例) 指名した後、必ず全員で復唱する。

(例) 3グループに分け、担任、AD、NEAが個別に聞き取る。

(例) 一往復半以上の会話を意識させて会話に取り組みさせる。

(2) 【やさしい子「人を大切にできる心情」の育成】

①ふれあい活動の充実 (やさしい子①②③)

異学年交流、兄弟学級、たてわり班活動を意図的・計画的に実施し、相手を尊重する態度や協働することの大切さを事前・事後指導でも行う。

(例) 手伝ってもらったとき、教えてもらったときには「ありがとう」を必ず言う。

(例) 「さん」や「くん」を付けて名前を呼ぶ。

(例) 感謝の手紙を書いて渡す。

②特別支援教育の充実 (やさしい子①②)

特別支援教室では、個別の支援計画及び個別指導計画に基づいて自立活動を行い、成果と課題を担任と共有し、通常の学級でも指導を継続する。また、特別支援教室での指導は、意図的に「ありがとう」を言う場を設定する。また、ていねいな言葉遣いや気持ちのよいあいさつを心がけさせ、他者との関わりの基礎を育む。

(例) 日課表を活用し、指導した内容を担任に知らせる。似たような場面では般化されていたか共有を図る。

(例) 小集団活動の時間に「ありがとう」を言った回数を数え、振り返りのときに伝える。

③あいさつ運動の充実 (やさしい子②)

たてわり班による朝のあいさつ運動を実施し、ていねいなあいさつの仕方を身に付けさせる。

(例) あいさつ当番の前(1～5年生は1つ上の学年に、6年生は1年生に)で止まってあいさつする。

④「友達のよいところをさがそう」の取組の拡充 (やさしい子①③)

取組を増やし、友達のよいところをさがす目を養うとともに、自分にしてもらいたいことをすすんで行う子を育む。また、感謝の気持ちを伝える態度を培う。

(例) 期間を決めて「ありがとうの木」を掲げ、子供たちが書いて貼る。

(3) 【元気な子「前向きに生活する態度」の育成】

①学校行事の事前・事後指導の充実（元気な子①②）

学校行事を通して、自他のよさを見付け合う喜びを感得し、協働する態度や節目として前向きに生活する態度を養う。

(例) 学芸会では、演技を見合い助言し合いながらよりよいものをつくりあげていく。

※仕上がりよりも仕上げる過程を大切に指導していく。

②体験活動のさらなる充実（元気な子①②）

邦楽体験や職場体験等の新たなことに対し、友達と励まし合いながら挑戦する心を育む。また、そこで出会う人から好感がもたれるように笑顔で接することができるようにする。

(例) 邦楽体験を生かしたミニ発表会を行う。受付や案内も児童に受けもたせ、接遇させる。

③運動の日常化を図る取り組みの充実（元気な子②③）

マラソンやなわとびなど、全校で取り組む運動の充実を図る。また、「二瑞チャレンジパーク」を充実させ、運動の日常化を図る。

(例) マラソン選手やなわとび名人を招聘し、走り方や跳び方を習わせる。

(例) 体力調査を分析し、「二瑞チャレンジパーク」の内容を見直したり、学期毎に内容を変えた「二瑞チャレンジパーク」に取り組ませたりする。

④食育の推進（元気な子③）

給食の時間を中心に、栄養のバランスや食文化等の知識を増やす。また、各教科等で積極的に栄養職員を活用し、食育を推進する。

(例) 栄養職員が作成した給食便りやお知らせを読む。さらに、それに伴う話があれば担任が付け足して行う。

(例) 3年国語「すがたをかえる大豆」の導入で、大豆を食材に使った給食を提示し、大豆がどこに使われているか児童に考えさせた後、栄養職員から伝えてもらう。また、大豆の栄養についても触れて話してもらう。